

日本武尊の足跡を追いかける

銅像を見に出かけましょう



日本平の日本武尊

トは「倭建命」「古事記」では「日本武尊」として記述され、英雄と言われ、その伝説上の人物であることが通説です。謎が多く、その足跡が全国各地にあり、大いに伝説の英雄と決めることができません。



日本武尊は第十二代景行天皇の皇子で、幼いころから猛々しい性格でした。このころ大和朝廷は日本各地のまつろわぬ者たちを征伐し全国を統一しようとしていました。当時の天皇の宮は大和にありそが政治の中心地です。大和から離れた九州や関東・東北地方はたびたび反抗し朝廷の命に従わないことがありました。ある時、九州の熊襲が騒いでいると知らせがあり、天皇は皇子の小碓に征伐を命じました。小碓皇子は熊襲の首長が館の新築祝いで酒宴を催しているところに女装して潜入し誅殺しました。それまで「日本童男」と名乗っていたが、この時熊襲の首長から大和の勇者の名を名乗ってほしいと言われ、「ヤマトタケル」となりました。一般的に日本武尊と「尊」を付して四文字で表記しています。「尊」は天皇の後継者となる皇子につけられます。景行天皇の皇子小碓が東征の將軍と決まり、景行天皇が小碓を天皇の後継者とすることを約束したのです。漢字表記もいろいろです。倭武尊（『古語拾遺』）倭建尊（『新撰姓氏録』）日本武命（『尾張国風土記』）などがあり、神社の祭神として大和建としているところもあります。また、「倭武天皇」としている『常陸国風土記』などはその理由がはっきりしていません。



加佐登神社の絵馬

西征の次は東征です。日本武尊は蝦夷征伐に出かけました。伊勢神宮を経由して尾張に入り軍を整えました。ここから駿河、相模を経て上総、常陸、陸奥を平定しました。そして、甲斐、信濃を周って再び尾張に戻ってきました。

大小様々 日本各地の日本武尊の銅像や石像

日本武尊伝説 <https://www.yamatotakeru.jp>

最も大きな日本武尊

三峰神社(埼玉県秩父市三峰)にある像は大きくて堂々としています。標高約千百メートルにある広大な神社の境内地の奥に片手を挙げた銅像が立っています。



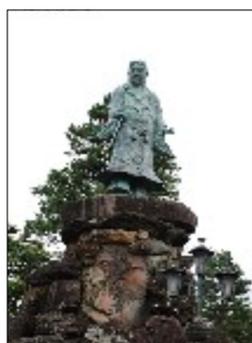
痩せた小さな日本武尊

『常陸の国風土記』にある玉清井(茨城県行方市井上)にある銅像は体が細く小さな日本武尊です。



最も古い日本武尊

金沢の名所兼六園(石川県金沢市丸の内一・二)にある銅像は鳥が寄り付かないため、他の銅像のように糞をかけられることがないと言われています。体がやや太り気味な日本武尊です。



年よりの日本武尊

加佐登神社(三重県鈴鹿市加佐登町二〇一二)の石像は玉手箱を開けてしまった浦島太郎のような日本武尊です。神社に隣接して日本武尊墓と言われる白鳥塚古墳があります。



おしゃれな日本武尊

米原市の伊吹支所付近(岐阜県米原市春照)の道路わきに立つ日本武尊は西洋風な衣装を身に着けていて大変おしゃれです。



かっこいい日本武尊

大鳥神社(大阪府堺市西区鳳北町一)の日本武尊はどこから見てもかっこいいと思える強そうな顔をしています。



若い日本武尊

国道四一〇号の沿木更津大橋(千葉県木更津市大寺)にある弟橘媛と二人で向き合っているのはまだ少年の日本武尊です。



陶器の日本武尊

矢作神社(愛知県岡崎市矢作町字宝珠庵二)の日本武尊は陶製です。高温で焼かれて造られたので全身日焼けしたかのような色です。



モデルのような日本武尊

平群神社(三重県桑名市志知)の日本武尊は刀を持って片足を台に乗せモデルのようなポーズをとっています。



双子のような日本武尊

焼津神社(静岡県焼津市焼津二)と矢倉神社(静岡県清水区矢倉町五)の日本武尊はまるで双子のように衣装も顔も似ています。よく見るとわずかな違いがわかるのですが、並べてみないとその違いが見つかりません。



塔の上の日本武尊

標高四十四メートル大田山山頂にあるきみさらずタワー(千葉県更津)には日本武尊と弟橘媛が向き合っているように、日本武尊は走水で入水した弟橘媛を想い、この山から海を眺めていたと伝えられています。

